

『おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文』

教師用手引き



[目 次]

- 力だめし作文について p.2
- 各課の解説
 - 第 1 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.2
 - 第 2 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.6
 - 第 3 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.8
 - 第 4 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.10
 - 第 5 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.12
 - 第 6 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.14
 - 第 7 課 (アイデアさがし/作文ルールを学ぼう/作文を書く/フィードバック) p.16
 - 第 8 課 (作文集について/復習 テスト練習について/
力だめし作文 (もう一度) について/作文ルールを学ぼう) p.18
- 作文の評価について p.19
- 作文フィードバックのしかた p.21
- 期末テストについて 参考例 p.25

力だめし作文

- 20分で辞書やインターネットを見ずに自力で書ける字数までやってみてください。400字よりもかなり短い作文になってもかまいません。
- 書いた作文は回収して、学習者がどの程度書けるか、また、この教材で学ぶのに適したレベルかを判断する材料とします。添削も評価もしなくて結構です。細かい間違いを指摘することより学習者の書く意欲やこれから作文学習によって書く能力を向上させたいという気持ちを大切にしてください。
- 他者の評価よりも、学習者が作文学習を始める前にどのくらい作文か書けるか（書けないか）を自覚することが大切です。そして、「作文学習の最後の第8課『総まとめ』で、同じ題でもう一度書きます。どのくらい書けるようになるかを楽しみにしてください」と学習者に伝えてください。

第1課



アイデアさがし

- 「ペア・グループで話しましょう」(p.3)について話しながらお互いのことを少しずつ知り、クラスメイトと気楽におしゃべりができる雰囲気をつくれます。好きか嫌いかを答えるだけで済ませてしまうペアがいたら、その理由を話すことで内容が膨らみ、いい作文になるので、理由を考えて話すように促します。好き嫌いの理由を考えることを入り口として学習者が自身の価値観に気づき、そこから「私とはどのような特徴、性格、バックグラウンドを持つ人物なのか、そのうちの何を伝えたいのか」を考えることができます。
- 「私を表す漢字」というタイトルに怯む学習者もいます。自分を一体どんな漢字で表せばいいのかと考え込んでしまう場合には、「好きなこと一つを選んで、その理由をよく考えれば、自分らしさが表せる」とアドバイスします。p.3の設問はそのようなことを考慮して作りました。「一人でいるのが好きか嫌いか」の答えからは、その人の一端がうかがえます。「プレゼントをもらうのが好きか、あげるのが好きか」という質問に、「もらうのが好きでしょう、もちろん」という人あり、「ええっ?! 私はあげるのが好き」と答える人あり。そこからおしゃべりが始まり、自分はどうな人物なのかを考えることにつながり、作文の内容が膨らんでいきます。
- 漢字1字ではなく、2字でもいいかと学習者から聞かれることもありますが、できるだけ1字で考えるように促してください。「旅」とするほうが「旅行」よりも抽象度が上がり書く内容の幅が広がり、あわせて語彙も豊かになります。こんな説明でたいていは納得してくれますが、それでも、どうしても漢字2文字で書きたい場合には、書いてもらいましょう。頭ごなしに禁止するのではなく、理由を説明してもらい、学習者自身に決めてもらいます。フィードバックのときに他の人の作文も読んで、題の決定が満足いくものだったか、感想が聞けるとさらにいいですね。
- このレベルの学習者には「おもしろいから」「気持ちいいから」「いいです」「だめです」といった初級レベルの簡単な言葉で済ませてしまう人も少なくありません。そんなときは「それでは言葉が増えていけないので、もう少し自分の気持ちや考えについて話してみよう。そうすると、語彙が増えていきますよ。」と後押しします。p.4のヒントを読んでいくと、触発されて理由を考え出せることもあります。でも、最初からこれを読むのではなく、まずは自分で考えてみるのが肝心です。
- p.5の作文例は、著者(杉浦)の実体験に基づいたものです。一通り読み終わった後に、「これは私のことです」と言うと、

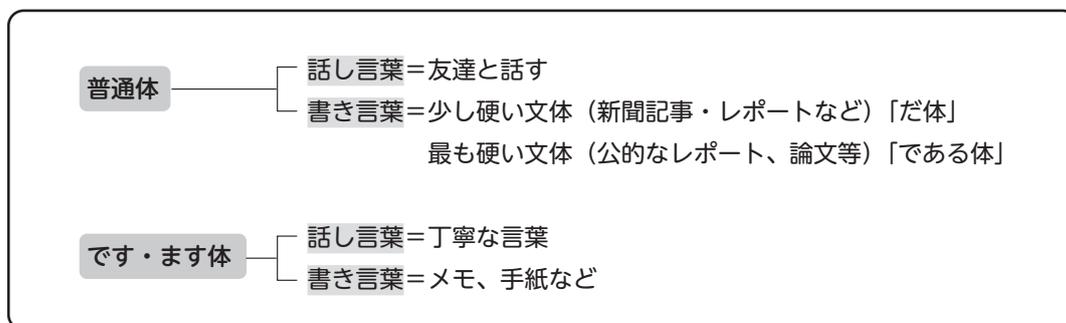
はっとする学習者もいます。単なる「学習内容」だった文章が、目の前にいる人に結びつくものとして血肉をもって立ち現れるようです。すると、提出される作文も深みのあるものが増えます。先生方が支障のない範囲でご自分のことを題材にして作文例を示すのもおもしろい方法だと思います。先に自身のことを伝えれば、学習者も伝えやすくなるようです。ただし、自己開示の方法や内容、スピードには個人差がありますので、無理のない範囲で行ってください。中にはまったく響かない学習者もいますが、この課でダメなら、次の課で。何回かノックすると扉が開くこともあります。



作文ルールを学ぼう

作文ルール 1. 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く

- 初級を終えた学習者の頭の中には、「丁寧な言葉＝です・ます体、友達との言葉＝普通体」という図式があります。ですから、さあ、次は中級の硬い内容を書こうと意気込んでいるところに「書き言葉では普通体を使う」という情報が入ると混乱するのももっともです。「普通体は話し言葉としては友達という言葉になるけれど、書き言葉として使うと少し硬い内容を書くのにぴったりです。同じ言葉なのに、おもしろいでしょう。」と説明してみてください。下図を示すのも一案です。



- 初級を終えたばかりの学習者は、話し言葉か書き言葉か、また、どんな文章の種類かによって、文体が異なることは理解できても、作文を書くと、つい「です・ます体」や話し言葉の文体に戻ってしまいがちです。
- 第1課で完全に学習できなくても、第2課以降で各課の課題作文を書くことを通して、少しずつ学習者の作文の「普通体」が定着していきます。授業で作文のフィードバックをするときに、今回は「普通体は70%ぐらいできてましたよ」とか「99%できるようになりましたね（1か所だけ違っていて惜しい!）」とか、前向きな評価をしていくといいでしょう。

【練習 1】

- 「い形容詞」では「おもしろいだ」や「高いだ」のように、「な形容詞」の普通体と混同して「だ」を付ける間違いが見られます。
- 動詞や形容詞の活用形の誤用にも気をつけてください。活用形が間違っただけで覚えている人もいます。また、語によって間違える人もいます。例えば、「高かった」「おもしろかった」と「い形容詞」の活用全部を間違っている人も一度「い形容詞」の活用形の規則を復習したほうがいいでしょう。一方、「高かった」はできていても「おもしろかった」と書くような人もいます。それぞれの語の品詞として「い形容詞」と理解しているかどうか確認した上で、「い形容詞」の活用の規則を確認するといいいでしょう。あくまでも作文に必要な文法の確認ですので、文法学習が中心にならないようにしてください。

【練習 2】

- 普通体は「だろう」を用い、「でしょう」ではないことを確認してください。「だろう」は普通体という意識が学習者には薄いようで、つい「でしょう」を書いてしまいがちです。

【練習 3】

- 硬い文体の書き言葉では縮約形は使いません。縮約形「～てる」は、「～ている」と書くことを学習者に確認してください。なお、友だちへのメッセージや SNS の書き込みなどでは柔らかい文体の話し言葉として縮約形を用いることができます。
- 初めて普通体を意識する学習者もいるので、間違いが多くてもよしとしてください。第 2 課以降の作文で、普通体で書いているかどうかを見てあげてください。

もっと！作文ルール 1. 文体の違い

- この本が学習対象としているのは、身近な内容が中心で、長さも 400 字程度と長くないので、普通体の「だ体」を使う作文を取り上げました。中級学習者でも論文や専門のレポートを書く必要がある人には、「である体」の知識も求められます。この本の作文でも第 3 課以降は「である体」で書いてもいいでしょう。



作文を書く

- 「です・ます体」で気楽に話したことを、普通体に変えて書くことを再度確認してください。そうしないと、いつも使っている「です・ます体」をこの課題にも使ってしまう学習者もいます。



フィードバック

お互いの作文を読み合う意義の確認

- 作文を交換して読む活動をする前に、なぜその活動をするのか、どのような効果があるのかを説明します。「ほかの人の作文を読むことで思いつかなかったアイデアがもらえる」「新しい言葉が増える」「読み手のコメントをもらって自分の作文の弱点がわかって改善できる」「音読すると漢字の読み方を覚えられる」などを挙げると、たいていの学習者は納得してくれます。「だから、ちょっと恥ずかしいかもしれないけれど、交換して読んでみよう。コメントするときは、まず、いいところを一つ言ってから、直したほうがいいところを一つ言ってください」と続けるといいようです。
- それでも、「ほかの人に読まれるのはいやだ、ほかの人のを読むのもいやだ」という信念（ビリーフ belief）を持つ学習者がいるかもしれないので、最初の作文を返却する前に交換して読んでもいいかどうか、個別に表明できる手段で確認することをお勧めします。例えば、初回のオリエンテーションのときに配布・回収する学習者情報に閲覧可否の記入欄を設ける方法や、教師のメールに個別に送る方法などが考えられます。

「今日のおすすめ作文」の提示方法

- 「今日のおすすめ作文」はスライド等で皆で見ながら、それを書いた人に音読してもらいます。その後、その作文のいいところについて学習者からコメントを言ってもらい、教師もコメントをします。いつも同じ人の作文ばかりにならないように配慮したいので、2, 3 編選んでもいいと思います。

「今日のおすすめ作文」による他のフィードバック例

- 「今日のおすすめ作文」のヒントとして以下のようなやり方もあります。参考として実際に著者（木戸）の授業で行っていた方法を紹介します。

- ①書いた人の名前を付箋で消して、1～3例の添削済み作文をスクリーンに映す
- ②教師がよかった点を口頭で説明する、または、同じスクリーンによかった点を短く箇条書きして見せる
- ③スクリーンに映した作文を教師が少しゆっくりした口調で音読する
- ④時間があれば、学生たちにおすすめ作文についてコメントを聞く

- 作文を選ぶ基準として、まずはその人にしか書けない内容のおもしろいものを選ぶようにしました。内容のおもしろさに加え、表現上の工夫では以下の2点の異なるタイプの作文を選ぶようにしました。
 - (1) その課の作文ルールを使ってモデル作文に準じた作文
 - (2) 作文ルールを使いながらも創意工夫して応用した作文
- 授業では他の人が選ばなかった題材を取り上げて題材そのもののおもしろさをアピールする作文が見られました。一方、複数の人が選んだ題材でもその人なりの意見や体験などが表現された作文はおもしろく読めます。
- 学習者の作文を見ていくと、課題のために書いたもので、同じ作文ルールを用いていてアウトラインも類似した作文でも、教師が思いも寄らない読み甲斐のある作文に出くわします。一方で、各課の内容を着実に学んでいくことを通して徐々に作文が上達していく学習者もいます。創意工夫タイプの作文も着実タイプの作文もどちらもいい作文として評価できます。

第2課



アイデアさがし

- 「何のために作文を書くのか」「せっかく書いた作文をもっと活用したい」と考え、この題を選びました。「おすすめのランチ」では実用的な情報交換をし、「おすすめの場所」では、例えば、誰にでもある落ち込んだときに対処する方法を話し合います。また、「小確幸」は「どんなとき幸せを感じるか」を共有する楽しさがあります。時間があれば、「うずまき猫のみつけかた」の抜粋を一緒に読みます。ハルキムラカミとして母語で読んだことのある人も、村上春樹として日本語の原文を読めたことに大いに満足して、自分の小確幸をじっくり考えてくれます。



作文ルールを学ぼう

作文ルール 2. 「話し言葉」ではなく「書き言葉」で書く

- 語の種類によって話し言葉と書き言葉を使い分けることを学びます。中級作文でよく用いるものや間違いやすい語のうち、接続語、接続助詞、副詞、その他に分けました。硬い文体で書く際、文末の述語を普通体にするだけではないことに気をつけてください。
- 学習者からすべての語を書き言葉にしないといけないのかと質問されるかもしれません。語の一部には使い分けがあること、また、全部の語に使い分けがあるのではなく一部のよく使う語について覚えておくといふことを学習者に伝えるといいでしょう。

【練習 1】

- ここで挙げた「書き言葉」は普通体で書く場合に許容可能なものを広く考えて選びました。

【練習 2】

- この練習には解答例は付けていますが、全体的に「書き言葉」になっていけばいいです。「書き言葉」に直すことには普通体にすることも含まれています。目標として、文章全体を書き言葉にふさわしい文体にするにはどうしたらいいかを学習者間で話し合っ、文体意識を高めることを目指しています。話し言葉の語を書き言葉の語に書き換えるだけといった単なる置き換え練習にならないようにしてください。

【練習 3】

- 書き言葉の文体に慣れていない学習者は連用中止形を使うことに慣れていないので、意識的な練習が必要です。この練習は、作文の中で「連用形」と「て形」をどのように使い分けるかを意識することを目標としています。文法的に「て形」は付帯状況の場合に用い、文に準ずる意味のまとまりのある場合は「連用形」を使うという練習にしています。「て形」を「連体形」にすれば書き言葉になるといった文体中心の説明に終始せず、「て形」と「連用形」の文法的な使い分けを作文の中で活かせるようになることを目指しています。

もっと！作文ルール 2. 話し言葉の縮約形と書き言葉の違い

- 話し言葉から書き言葉に移行する際に、話し言葉でよく使う縮約形を作文にもそのまま書いてしまうことがあります。硬い文体の作文では縮約形は使わないことに注意してください。主な縮約形を表にして載せましたので、学習者の作文を見て必要に応じて参照してください。



作文を書く

- 書きたいことを書きたいように書くのではなく、読み手に正確に伝わるかが重要であることを強調し、読み手を意識して書くように伝えます。そのためにはアウトラインを使うことが重要です。「アウトラインを使いましょう」(p.12～13)を再度確認し、これを使って作文を書くように促します。



フィードバック

- ペアで交換して読んでお互いにコメントする際、口頭で伝えるのもいいですし、いいところと直したほうがいいところを一つずつ書き込むという活動をしてもおもしろいと思います。

第3課



アイデアさがし

- 「ペア・グループで話しましょう」には難しい語彙が並んでいますが、スマホで（辞書で）調べながら考えてもらいます。語彙の意味や順番を考えるうちに、自身の経験や苦労したこと、ラッキーだったことなどを思い出して、おしゃべりが広がっていきます。このおしゃべりがそのあとの「支持文」の質と量を左右するので、十分に時間を取りたいところです。
- この課から段落構成に気をつけて書く作業が始まります。「アウトラインを使いましょう」を丁寧に学んでいくと、それが身につくようになっていきます。「まず接続語と中心文を書く、次にそれぞれの支持文を書く」という書き方を指導してください。これは今後レポートや小論文を書くときにも役立ちます。



作文ルールを学ぼう

作文ルール 3. 原稿用紙の使い方

- 原稿用紙の使い方を通して、日本語の表記法の基本を身につけることを目指しています。手書きで書くことによって、漢字仮名交じり文や記号などの表記法を学んでいきます。日本語ワープロソフトを使えば自動的にある程度は整った表記にできますが、手書きでは理解だけではなく実際に書くので、縦書きと横書きのルールが学習者には実感しやすくなります。
- 漢字仮名交じり文で横書きと縦書きの作文の書き方を学習しておけば、読解にも役立つはずですが、レポートや論文は一部の分野以外では横書きが多いですが、本や新聞・雑誌の記事は縦書きで書かれたものも多いです。私たちの授業では、縦書きに慣れるようにあえて縦書きで作文を提出してくる人もいました。

作文ルール 4 接続語を使う

- 第3課で取り上げる順番を表す接続語は、第3課の作文課題「留学の準備」のアウトラインで使うと読みやすい作文になります。留学の準備に必要なことを複数考え、それらの準備をどのような順番で並べればわかりやすい作文になるかを学習者に考えてほしいと思います。必要なところに最も適切な接続語を使うことで、アウトラインを明確に示すことができます。
- 順番を表す接続語で注意してほしいのは、取り上げる項目の数です。3つ以上か、2つか、といった取り上げる項目の数があります。3つ以上の場合、①「まず」「次に」グループの接続語、または、②「第一に／は」「第二に／は」グループの接続語を用います。2つの場合は、③「一つは」「もう一つは」グループの接続語を用います。
- また、3つ以上のものを並べる①と②の接続語は、①取り上げる項目の順番を決めて一つずつ挙げていくか、②取り上げる項目の上位概念が1つのカテゴリの中で同種のものとして同列に並べられるものか、という違いにも対応しています。
- 実は先行研究（石黒 2005）では、①「まず」「次に」グループの接続語は、順番が決まっていなくても決まっていなくても作文に使われるという使用実態も報告されています。しかし、この教科書では中級入門期の学習者に対して序列の有無で使い分けてもらい、基本的な意味を理解してもらうことを念頭に、あえて①「まず」「次に」グループの接続語を「順番が決まっているとき」、②「第一に／は」「第二に／は」グループの接続語を「順番が決まっていないとき」に分けて提示しました。

- 日本語教育における作文教育の研究では、コーパスなどのデータから接続語の使用傾向を探る研究も最近はかなり進んできました。しかし、実際の接続語の使用実態をそのまま学習者に教えても、直接作文が上達するわけではなりません。実際に作文を書く際にそれぞれの接続語を必要に応じて使い分けるための知識と練習が必要になります。

【練習 1】

- 横書きのルールを最初に読んでから本文を原稿用紙に書いてもいいし、逆に、最初に本文を原稿用紙に書いてみてから、横書きのルールを必要に応じて読みながら書いていってもいいです。漢字仮名交じり文の作文の書き方に慣れるとともに、句読点や小さい文字の位置や記号の書き方にも注意してください。
- 段落の初めは 1 マスあけて書くことを意外とわかっていない学習者もいます。2 マス以上あけたり、1 行あけたりする人もいます。また、段落分けをしないで 1 マスあけずに最初から最後まで長々と書き連ねる作文も見られます。
- なお、句読点や小さい文字や記号が行末に来た場合の書き方には、本文で示したルール以外にも、1 マス内に文字と一緒に入れる方法もあります。他の書き方については解答例を参照してください。

【練習 2】

- 横書きのルールと同じように練習させてください。横書きとは異なる書き方となる長音の記号の方向（上から下）、句読点やかぎかっこの位置に注意してください。

もっと！作文ルール 3. 順接と逆接の接続語

- 順接と逆接の接続語は論理な関係を示す上で大切です。意外と難しいのが順接の使い分けです。例 1 「そのため」、例 2 「したがって」、例 3 「それで」の例を見ながら、それぞれの違いを確認してください。接続語の詳しい説明や例は、本冊巻末参考文献リストの森田（1989）、石黒（2008）、沖森（2016）を参照してください。これらの定義や例を中級学習者にそのまま教えるのではなく、意味用法を検討する上で参考にするといいでしょう。

もっと！作文ルール 4. 指示語を使う

- 指示語では作文によく使う「そ系」の前方の文脈を指示する場合を取り上げました。作文では「あのとき」や「あそこで」のように、「そ系」を使うべきところに「あ系」を使う誤用がよく見られるので注意してください。



作文を書く

- 書き始める前に、「p.23 のアウトラインを使って書く」「題と氏名も書く」「接続語→中心文→支持文を書く」「作文用紙の書き方に気をつけて書く」「段落は 1 字あけて書く」ことをクラスで確認します。しつこいようですが、再度学習者に伝えてください。

書く内容に集中していると、これらをすっかり忘れて書き始めてしまう人もいます。また、この課では上記のように注意点が多いので、再確認は必須です。



フィードバック

- ペアで交換して作文を読み、内容に関する感想を話します。次に、この課で学んだ「段落」「接続語」「中心文」「支持文」について確認します。段落のはじめは 1 字あいているか、適切な接続語が使われているかを確認、各段落の中心文だと思われる文にマーク（下線を引く、蛍光ペンでハイライトする等）をし、書いた本人に合っているかどうか確かめます。

第4課



アイデアさがし

- 中国では名前を赤いペンで書くことを嫌がるそうです。「死んだ人、もしくは罪人」を意味するからだそうです。それを知らず、私は何度赤ペンで名前を書いた添削を返してしまったことか……。ハグをする習慣のある人たちも、だれかれ構わずハグするわけではなく、目に見えない細やかなルールがあるそうです。そうした「普通」は他の「普通」を持つ人と接することによって顕在化します。その違いに気づき、理由を深く考え、比較しながら述べていきます。この作業を十分に行えば、「〇〇人は、〇〇地方の人は……」と決めつけることの無意味さに気づいてくれるでしょう。また、立場、主義、主張が異なることで他者を非難すれば、おのずと自分も非難される立場に立つことにも気づくはずで



作文ルールを学ぼう

作文ルール 5. アウトライン（構成）を考える－段落・中心文・支持文

- 最初にアウトラインとして4つの段落の骨格となる中心文を考えてから、その後でそれぞれの中心文の支持文を考えるように指導してください。中心文と支持文を一緒に考え出すと、中心文と支持文の役割が明確にならず、その結果アウトラインも段落もあいまいになってしまいます。

【練習1】

- 中心文に線を引くことによって、各段落に中心文があり、それらの中心文に役割があることを確認してください。この作業からアウトラインの重要性を意識し、各文の役割や段落分けの重要性を学習者が認識することが大切です。この練習は、何となく文を連ねて作文にしていくことから脱却して、アウトラインを考えながら書いていくための第一歩となります。

【練習2】

- 表の指示のとおり、(1) 私の「普通」の説明、(2) その理由、(3) 日本の「普通」の説明、(4) 私の経験や意見、という中心文の役割に従って、段落もこの順番で書くことをおすすめします。
- 学習者の中には自分の好きなアウトラインで書いて、ここで提示したアウトラインとは異なる段落構成で書く人もいます。そのような作文には作文全体では問題ないように見えるものもあります。しかし、作文ルール5で提示されたアウトラインがわかった上で、違うアウトラインで書いたとは限りません。直接書いた本人に話を聞くと、アウトラインの意図や意味が理解されないまま、適当に自分の好きなアウトラインで書いている場合も見られました。
- もしどうしても練習2のアウトラインで書きたくないという学習者がいたら、最初に練習2のアウトラインで書いてみた後で、他のアウトラインでも書いてみることを応用練習としてやってみてもいいでしょう。

【練習3】

- 中心文に対して、どのような支持文を書けば読み手にわかりやすくなるかを考えながら進めてください。中心文で挙げたことに対して例を挙げる、中心文に書いた重要なキーワードの説明をする、などです。自分が読み手なら、それぞれの中心文に対してどのような支持文があれば説得力が増すかを考えさせるのもいいでしょう。

もっと！作文ルール 5. 対比・問題・意見の表現

- ①対比の表現は、「私の普通」と「あなたの普通」の対比を明示します。学習者の作文では対比があっても、「一方」や「それに対して」のような接続語がないものも見られます。対比の表現があると、両者の違いが明確になり、わかりやすい作文になると学習者に伝えてください。
- ②問題を問いかける表現も同様で、問いを明示することによって、読み手にはこれから書かれる内容の道筋が見えるので、理解しやすくなります。このように、読み手に次の内容を予測させる文を「道しるべ文」と名付けました。「道しるべ文」については第7課の作文ルール9で学びます。③意見の表現は「～と思う」ばかりを使いがちな学習者に最初の一步として他の意見の表現も使ってみることを勧めるために、(1)～(4)を取り上げました。なお、この課では複数の意見の表現を使うことに留め、第7課で、理由と具体例を論拠として意見の表現を書く際の、より詳しい使い分けを学びます。



作文を書く

- 原稿用紙の使い方を確認してから書くように伝えます。学んだことは積み重ねて使えるように、しつこいと思われても繰り返し伝えると学習者に浸み込んでいくようです。



フィードバック

- ペアで交換して、内容に関するコメントをした後（詳しい方法については第1課の手引き参照）、形式についても確かめます。前の課と同様、「段落、接続語、中心文、支持文」にマークをして確かめます。
- 作文の内容が推測できる題を考え、正しく表すのは難しいものです。どのような題を考えたか、どう直すとよいかを皆で共有して考えるのもいい方法です。

第5課



アイデアさがし

- 第5課あたりになればすでにお互い同士が遠慮なくものを言い合うことができるようになっていでしょう。「三人寄れば文殊の知恵」ではありませんが、わいわいがやがやおしゃべりしているうちに、いくつもの意見が生まれてきます。グループの中に発想の豊かな人がいると、その人に引きずられるように「そういえば……」と言いたいことが出てくることもあります。それを全員でボードなどに書きだして眺めているうちに、自分なりの主張が形作られ、作文にまとめていくことができます。例えば「ネットショップがいい理由」を考えているとき、ある学生が「秘密の買い物ができる」と発言し、「おおー」と共感されていました。それが引き金となって話し合いに熱が入りました。
- 「自分と反対の意見のいいところ」と「自分と反対の意見に反対」を述べるころは、難しい箇所です。ここは時間を取ってじっくり考え、共有して確かめます。



作文ルールを学ぼう

作文ルール 6. 意見を論理的に述べる

- 読み手に対して説得力のある意見にするために、自分の意見に対して、そう考えた理由と具体例を挙げます。ここで言う「論理的」というのは、意見を述べるだけでなく、その根拠を明確にすることを意味します。第4課で学習した中心文と支持文の書き方を活かしてください。
- この課では、学習者同士で話し合いながらアイデアを出し合うことを重視します。他の人との話し合いを通して自分の頭で考えることで、最終的に自分なりのアイデアをまとめるようにします。ですから、まずは学習者が自分たちだけでアイデアを出し合うことを強くおすすめします。
- 自分の意見、その理由、具体例がある程度まとまった上でなら、論文やレポートを書く場合のように必要に応じて資料を調べてもらってもいいでしょう。初めから資料で調べてしまうと、学習者は自分の頭で考える過程が抜けてしまう恐れがあります。
- この課では表現に特化した練習は設けていませんが、今まで学習した接続語、中心文と支持文による段落、「からだ」などの理由の表現をできるだけ作文で使うように指導してください。



作文を書く

- テキストの指示通りの段落構成で書くことを指導してください。もちろんほかの書き方も可能ですが、ここでは **A** ~ **C** の論の進め方を習得するのが大きい目的です。
- これまでの学習で学んだ作文ルールを取り入れることも意識させてください。「どのルールが使えるか、まず一人でテキストを見て考えて、10分後に何ページのどのルールが作文のどこに使えるか、みんなで話し合しましょう」と具体的な指示を出すすと効果的です。知識を得るだけでなく、実際の自分の作文に使えるようになるには、何度も繰り返し使ってみること、それが適切かどうか確かめることが大切だと学習者に伝えてください。



フィードバック

- ペア / グループで交換して読み、コメントをするときには、まず「内容面」について行い、次に「形式面」の確認をするように指導してください。何よりも肝心なのは筆者の言いたいことは何か、それは読み手にどう伝わるかだと思うからです。それを支えるテクニックとして「形式面」が必要になります。

第6課



アイデアさがし

- 「私の日本語の力の変化」を書く際、100%とはどんな状態かと聞くと、「日本人と同じになる」「日本語能力試験N1を取る」「自然な日本語で話せる」などいろいろな答えが返ってきます。その人なりのゴールがあります。
- グラフの内容を書くのに集中すると、肝心のグラフの表現を使って話すのを忘れることもあります。その都度、意識させてください。また、アウトラインを見ながら何回か音読練習した後、アウトラインを見ずに話してみると、不確かなところがはっきりします。
- p.52 **2** の例は普通体で書かれていますが、p.53 **3** の自分のグラフについて話すときは「です・ます体」で話します。スタイルチェンジの練習にもなります。



作文ルールを学ぼう

作文ルール7. グラフを説明する表現

- グラフの説明や変化の様子について、グラフ特有の表現を学習します。この課の作文に必要な表現に絞っているので、その他にグラフの表現を学びたい場合は、他の作文教科書で補うなどしてください。変化の様子について「だんだん」や「どんどん」などオノマトペ以外の表現が使えるようにしてください。
- グラフを説明する作文では、最初に何を表したグラフかを説明し、それから変化の様子を説明します。学習者の作文で、最初のグラフの説明なしにいきなりグラフの変化の様子を書き出す作文が見られるので、注意してください。
- 変化の样子の副詞を使い分ける際、「急激に」の「激」（変化の激しさ）、「急速に」の「速」（時間的な速さ）、「大幅に」の「幅」（変化のスケールの大きさ）という漢字の意味と関連してニュアンスの違いを教えるといいでしょう。また、どれも硬い文体の作文に使いますが、「急激」「急速」「次第に」は硬い文体、「大幅に」「徐々に」は前者よりは少し柔らかい印象の文体になります。

【練習1】

- 変化の様子に話し言葉の「どんどん」や「だんだん」を使わないように注意させてください。変化の動詞は代表的なものを挙げました。
- 「(飛行機が) 上昇する／下降する」と「(価格が) 上昇する／下落する」など対象等によって使用語彙が異なる場合があるので、使い方を辞書等で調べてから作文で使ってみるように学習者に促してみてください。中級レベルの学習者は新しい表現を調べて使いながら覚える場面も多くなることと思います。新しい表現について読み手であるクラスメイトに日本語で説明することを通して、学習者はお互いに語彙を増やすことができます。

【練習2】

- 答えは現時点（2020年）で日本で一般的に知られている情報に基づいています。将来、状況が変われば答えも変わります。学習者同士で話し合いながら選択肢のどちらの語のほうがよいかを考えてみてください。動詞の活用形の間違が多い場合は、活用形の復習もしてください。

【練習 3】

- 普通体と書き言葉の復習とグラフを説明する作文例を読む練習です。時間があれば、文体を比較する練習としてペアで「です・ます体」の作文をスピーチ風を読む練習をしてから、普通体（ここでは「だ体」を想定）の作文を朗読風読み上げる練習もしてみるといいでしょう。



作文を書く

- 添削する際にグラフがないと確認ができないので、作文ノートにもう一度書いてもらいます。



フィードバック

- ペアで交換して読み、内容のおもしろさを楽しんだ後に、グラフの表現が適切かどうかを確かめます。

第7課



アイデアさがし

- グラフの数も増え、複雑さも増すために難易度が上がります。3～4人のグループでじっくりグラフを読み取り、自由に考えを述べる時間を確保してください。
- 話し合いがうまくいかないグループがある場合は、他のグループの意見を聞きに行くという活動も有効です。手分けをして、話が盛り上がっているいくつかのグループに行き、どんなことが話題になったかを聞き、自分のグループに持ち帰って報告します。そこから着想を得て新たな意見が出てくることもありますし、それでも何も思い浮かばなければ、聞いてきた意見をそのまま使って書いてもよし、とします。



作文ルールを学ぼう

作文ルール 8. 意見を表す表現

- 意見を表す表現では、初級で学習した「～と思う」から脱却して、意見の種類によって表現の使い分けができることを目指しています。グラフの説明をして自分の意見を述べる課題作文に求められる意見の表現を **A**～**D**の中から選び、自分の作文の中で使い分けることが大切です。
- 使い分ける基準として、「根拠・データ」、「主張／自信あり」という2つの基準を設けました。「～と思う」を単に他の表現に置き換えるのではなく、根拠・データを作文に明示し、自信をもって主張したいのかを学習者が判断した上で意見の表現を使い分けるように指導してください。
- 「レポート・論文で主張するとき使えるか」については、先行研究や作文教科書でも基準が異なる場合がありますが、この本では自分の意見としてあることを「主張するとき」に使うとすれば、**A**～**D**のどの表現がより自分の主張する意図を表せるか、という観点から整理してみました。

A 「～と考えられる」「～と考える」グループを客観的な意見の表現として「主張するとき」の典型としました。

B 「～のではないか（読み手への問いかけ、意見を共有したい）」「～と思われる（理系では使わない）」は、限定条件付きの主張として取り上げました。

C 「～と思う」は、「（私が）思う」という一人称の主語を含む主観的な意見を述べる表現としました。さらに、「（心で）思う」は、「（頭で）考える」とは異なる語の意味となることから、「自信の有無にかかわらず根拠・データがなくても自分の意見を述べる場合に使える」という意味で△「主張する／自信あり」としました。なお、「～と思う」と「～と思われる（自発の形）」の違いは、「私」という一人称を主語として明示できるかどうかを基準としました。文法的な文として再現する場合、「思う」より客観的な意見の表現になり得ると解釈しました。

D の表現は広い意味で意見とし、根拠・データがなくて主張する意図も自信もなくとも自分が感じたことをそのまま述べる場合の表現としました。**D**には「かもしれない」のように文法では推論にあたる意味用法に分類する表現も含めました。

- 中級入門期の学習者に「意見」と「推論」の表現を区別して文法的な使い分けを教えるより、第7課の作文を書く

上で必要な意見の表現として提示したほうが、作文にとっての表現学習になると考え、このようなA～Dの意見の表現にまとめました。

【練習 1】

- 解答例はつけましたが、ぜひ学習者同士で前のA～D表を見ながら、a～hのどれを選ぶかをそれぞれの問題について話し合ってください。この課の目標は、「～と思う」しか使えない状態の学習者を念頭において、他の意見の表現も含めて使い分けられることです。
- g.「レポートや論文に使う」とh.「レポートや論文に使わない」は研究分野や文章の種類によって使用可能な表現が異なる項目です。例えば、「思われる」は文学の論文には使われているという使用実態の報告（早川・古本・苗田・松下・岡沢 2007）があります。
- 自分の専門分野ではどのような意見の表現を使っているかを学習者自身が調べることも勧めてみてください。同じ研究分野の学生に授業外で教えてもらったり、図書館やネットで専門文献の文末を見たり、「少納言」(<https://shonagon.ninjal.ac.jp/>『現代日本語書き言葉均衡コーパス』BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)のようなネットで無料公開しているコーパスで調べたりしてみてもいいでしょう。

作文ルール 9. 「道しるべ文」を使う

- 「道しるべ文」は、接続語のように、文と文の関係を示す文で、文章の流れを明示します。特に、長い作文では「道しるべ文」があると、アウトラインが明確になるので、書き手の意図が正しく読み手に伝わって読みやすくなります。「道しるべ文」は「関係指示文」（二通・佐藤 2003）と同じく、内容そのものを表す文とは異なります。ですから、短い作文では多用せず、長い作文で適切に使ってください。
- この課で挙げた以外にも「道しるべ文」はいろいろあります。作文フィードバックのときに、学習者の作文の中から「道しるべ文」に当たる文を授業で紹介して、学習者間で共有するといいいでしょう。この本では表現のリストを提示してできる限り覚えるような学習方法よりも、作文に必要な表現を学習者がお互いに話し合いながら見つけて共有していく協働による学習を目指しています。
- 「道しるべ文」というのは私たちが作った言葉ですが、この文が使えるようになると、格段に読みやすい作文になります。今後のレポートなどにも応用できるので、使うように指導してください。



作文を書く

- 「グラフの表現」「意見の表現」を意識し、自分の言いたいことが正しく読み手に伝わるように工夫して書くように指導してください。さらに、「最後の作文だから、この2つ以外にもこれまで学んだルールは使ってみましょう。どれが使いそうですか」と聞くと、学習者はテキストをあちこちめくりながら、「接続語がある」「中心文を先に書くといいいのでは？」などアイデアを出してくれます。



フィードバック

- 内容へのコメントの後、意見の表現の形式について確認します。書き手の意図と読み手の理解が一致したかどうかを確認めます。「道しるべ文」が使われているかどうか確認めます。

第8課



作文集について

- どんな活動にも言えることですが、それを行う意義を学習者が納得しているか否かは非常に重要です。ここでも p.69 の5つの意見を参考にして、この活動の意義について説明してください。
- 作文集は「印刷して学習者に配布する」「学習機関のホームページに載せる」「ポスターのように作って掲示して受講者以外の人にも読んでもらう」など、様々な展開が考えられます。事前に、個人情報に関して確認しましょう。実名を出したくない場合には匿名で、または、ペンネームで載せる方法もあります。事前にどのようにしたいか、学習者一人一人から聞いておく必要があります。
- 以下のホームページにアクセスすると、作文授業で作成した「作文集」が見られます（2020年8月現在）。

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育部門>日本語コース>学習の成果

補講日本語4書く 作文集 2019年度春学期

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/page000673.html>

補講日本語4書く 作文集 2019年度秋学期

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/page000710.html>

総合日本語3A 作文集 2019年度春学期

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/page000711.html>

総合日本語3B 作文集 2019年度秋学期

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/page000712.html>

以上の授業では、学習者が google form に直接入力する方法で、各自が選んだ最もよい作文を1編提出するようにし、word で教師が編集して1冊の作文集にまとめました。



復習 テスト練習について

- この練習をすると、テキストのあちこちを何度もひっくり返して確かめる姿が見られます。自分の書いた作文を引っ張り出して読み直す人もいます。忘れてしまってもテキストを確認し、自分で自分の作文を改善していく力が備わった証拠です。



力だめし作文（もう一度）について

- 学習者は、1回目の授業で書いた作文を読み、その後学んだことを使ってどのような書き直しができるか考えてから、再度同じ条件で書いてみます。自身の作文力の伸びを実感することができますし、p.74のチェックリストを使って点検することで、テキストの総復習にもなります。なにより、書けるようになったなと気分よさそうな学習者の顔を見るのは、教師にとっても喜びです。



作文ルールを学ぼう

もっと！作文ルール 6. Eメールの書き方

- 学習者が学生生活を行う上で、Eメールを日本語で書いたり読んだりする場面が多いため、この本でも取り上げました。Eメールは定型の書式や表現があり、それらがわかれば後は経験を積みながら書けるはずです。ですから、ここで取り上げた書式や表現を活用して、作文の宿題や授業に関する連絡をできる限り日本語のEメールでやってみることをおすすめします。

作文の評価について

評価全般について

- 各課の作文には評価項目と点数があります（別冊作文ノート）。その課で意識してほしい重要な項目に絞ってあります。この項目はすべてを網羅しているわけではありません。あまり細かくすると添削の負担が大きくなりますし、学習者にも何が大事なことなのか伝わりにくくなるからです。
- この評価表で採点すると、点数がずいぶんよくなってしまふと感じられるかもしれません。が、正しさにこだわって減点し、学習者の「書きたい気持ち」を削ぐのではなく、「伝えたい、書きたい、書けた、もっと書きたい」という気持ちを育てるための評価点数にしました。
- また、「文法・言葉の正しさ」についての割合も低くなっています。作文は筆者の伝えたいこと（＝内容、主張、アイデアなど）が主軸で、「正しさ」はそれを支えるための技術だと考えるからです。

各課の宿題作文の評価項目一覧

注：表の中の数字は各課の宿題作文の評価項目の番号（別冊参照）

評価項目の カテゴリー	評価項目	第1課	第2課	第3課	第4課	第5課	第6課	第7課
		私を表す 漢字	私のおす すめ	留学の準 備	私の「普 通」とあ なたの 「普通」	朝型か、 夜型か	グラフを 読む・グ ラフを書 く	グラフを 読む・意 見を述べ る
内容	内容がおもしろい。よく考えられている。	1						
	よく考えられた内容が書かれている。						1	
	説明と理由がわかりやすく書かれている。		1					
	よく考えられた意見が書かれている。					1		
	いろいろな意見の表現で、よく考えられた意見が書かれている。							1
構成（アウト ライン）	構成（アウトライン）がわかりやすい。				1			
	中心文がはっきり書かれている。			1				
	段落に分けて書かれている。中心文、支持文がわかりやすい。				2			
	中心文・支持文・接続語等を使い、論理的に書かれている。					2		
作文をわか りやすくす る表現	順番を表す接続語や指示語が使われていて、わかりやすい。			2				
	接続語・指示語・対比・問題点・意見の表現が上手に使われている。				3			
	理由の表現が上手に使われている。					3		
	道しるべ文、接続語が効果的に使われている。							2
	グラフの表現が正しく使われている。						2	3
作文の長さ	5行以上書かれている。	2						
	本文が7行以上書かれている。		2				3	
	本文が15行（300字）以上書かれている。			3	4			
	本文が20行（400字）以上書かれている。					4		4
文体	普通体で書かれている。	3	3	4	5	5		
	書き言葉 / 普通体で書かれている。						4	5
表現の正し さ	文法や言葉が正しく使われている。	4	4	5	6	6	5	6

作文フィードバックのしかた

- 各講で行うフィードバックの方法については、「第1課 フィードバック」(pp.4～5)をご覧ください。「お互いの作文を読み合う意義の確認」「『今日のおすすめ作文』の提示方法」「『今日のおすすめ作文』による他のフィードバック例」を解説しています。
- 作文チェックには時間も労力もかかります。せっかく行ったものを学習者に受け止めてもらい、改善につなげるためにはどうしたらいいか、頭を悩ますところです。ここでは私たちが行っている方法をいくつか紹介します(次ページのA Bを参照してください)。

受講者が比較的少人数で時間がかけられるとき

(学習者はよく考え、すぐに確認もできるので効果的ですが、A Bを作るのに時間がかかります。)

教師：提出された作文を読み、別冊「作文ノート」p.2の作文チェック記号だけをつける(答えは書かない)。評価の点数をつけAを作る。それをコピーし、チェックしたところに答えを書き、Bを作る。

学習者：Aを返してもらい、記号のところを自分で考えて直す。終わったらBをもらって確かめる。疑問点があれば、個人的に教師に質問する。

受講者が多人数で時間がかけられないとき

(コピー作業が一つ減るので、時間が節約できます。)

【バリエーション1】

教師：Aを作り、欄外に答えを書く。Bは作らない。

学習者：Aをもらい、答えを見ずに自分で考えて直す。その後で答えを見て確認する。疑問点があれば、個人的に教師に質問する。

【バリエーション2】

教師：作文をコピーする。コピーしたものをチェックし、答えと評価を記入し、Bを作る。

学習者：チェック・評価なしの作文をもらう。自分で評価の点数をつける。時間があれば自分で作文チェック記号を使ってチェックする。自己評価が終わったら、Bをもらって確かめる。疑問点があれば、個人的に教師に質問する。

A

私を表す漢字

リン テンニン

私を表す漢字は「遅」だ。

私はいつものんびりしている。授業のベルが鳴る ~~の~~ 一分前に教室に入ったり、しめきり前の最後の日に宿題を提出したりする。でも、授業 を 遅刻しない、宿題は 絶対 提出 します。のんびりは悪いではない。也 の人が困らなければ、あんなに [急がなくても] いいだ。

それで「遅」を選んだ。

B

私を表す漢字

リン テンニン

私を表す漢字は「遅」だ。

私はいつものんびりしている。授業のベルが鳴る ~~の~~ 一分前に教室に入ったり、しめきり前の最後の日に宿題を提出したりする。でも、しかし授業 を 遅刻しない、宿題は 絶対 提出 します。に し 必ず するのんびりは悪いではない。也 の人が しているのは こと 他困らなければ、あんなに [急がなくても] そんなに 慌 てなくても いいだ。

いい

それで「遅」を選んだ。

- 個人的な質問に対応している間、共通して間違えたものをクイズ形式にして考える作業もできます。表ページに問題を書き、裏ページに解答をつけます。こうすると、教師が個別対応している間、学習者が各自のペースで学習することができます。下記「多くの人が間違えたところ」を参考にしてください。

表

多くの人が間違えたところ

前回の宿題で多くの人が間違えたところでは、まず、一人で考えて答えを書いてください。裏に解答がありますが、見ないで考えてください。終わったら裏の解答を見て自分の答えと同じかどうか確かめてください。時間があったらペアになって、どんなことを書いたか、どうしてか、話し合ってみましょう。

【問題】 _____をよりよい書き言葉に直しなさい。

- 2000年に日本人はほとんどアメリカに留学したい _____。
(↑文末表現を加える)
- 日本人にとって漢字も使う言語は勉強しやすいだろう。だから、中国は人気のある留学先になった _____。
(↑文末表現を加える)
- 次に私の意見を二つ話す。
- 日本の人口はととっている。
- グラフを見ると、世界の人口が増えている _____。
(↑文末表現を加える)
- このグラフからわかることは、留学生が増え続けた _____。
(↑文末表現を加える)
- 2003年は急激に減ったが、来年からもう一度増えた。
- 今の人はずっと多くの選択をして、異なった文化に接触したいと考える。

解答

【問題】 _____ をよりよい書き言葉に直しなさい。

1. 2000年に日本人はほとんどアメリカに留学したい と考えていた。
(↑文末表現を加える)
2. 日本人にとって漢字も使う言語は勉強しやすいだろう。だから、中国は人気のある留学先になった と考える。
(↑文末表現を加える)
3. 次に私の意見を二つ 話す。
書く / 述べる
4. 日本の人口は と し と っ て い る。
年を取っている人が増えている / 高齢者が増えている / 高齢化している
5. グラフを見ると、世界の人口が増えている ことがわかる。
(↑文末表現を加える)
6. このグラフからわかることは、留学生が増え続けた ことだ。
(↑文末表現を加える)
7. 2003年は急激に減ったが、来年からもう一度増えた。
次の年 / 翌年
8. 今の人はもっと多くの 選択 をして、異 な っ た 文 化 に 接 触 し た い と 考 え る。
考えているのではないか / 考えていると思う

期末テストについて（参考例）

- 私たちが行った期末テストを紹介します。参考にしてください。テストには評価項目と点数も載せました。何が重要なのか意識して作文を書くことが向上につながると考えたからです。
- この通りのテストをしなければならないということではありません。ご自身の学習者に合った期末テストを行ってください。

(1) 目標

- 期末テストでは以下の2点を目標とします。
 - ①各課で学んだ作文ルールが理解できていること
 - ②各課で学んだアイデアをまとめてアウトラインを作成して辞書なしで作文を書けること
- 特に、初級から中級に上がるためには普通体の「だ体」と書き言葉で作文が書けるようになることが大切です。ですから、期末テストでも普通体と書き言葉に関して作文ルールの理解ができ、かつ、実際に作文でも書けるかどうかを確認します。

(2) 課題作文の長さ

- 課題作文2題は、200字程度の短い作文と400字程度の長い作文を課します。課題作文は各課の題と類似したものを出题し、授業で学んだ語彙を活かせるように考慮します。

(3) 評価の注意点

- 作文の評価では、宿題の作文と同じくチェックポイントに加点する方式で行います。減点ではなくあくまでもできた点を積極的に評価してください。漢字の間違いは減点対象にはせず、文法の間違いも意味が通じるかどうかを判断基準としてください。

期末テスト参考例

試験では先生の指示に従ってください（先生の話をよく聞いて、その通りにしてください）。

試験を返却するかどうか、先生に確かめてください。

辞書やスマホなどは見ないでください。

名前（ ）

1. 作文の下線のことばを例のように「だ体」・「書き言葉」に変えてください。（2点×15）

（例）朝ごはんを食べない人について説明したいですよ。

したい

最近、新聞を読まない人が増えているそうです。新聞を読むより、インターネットを見たいからでしょうね。

それに、新聞のニュースを見ずに、スマートフォンとかパソコンでニュースを見るようです。でも、私はやっ

ぱり新聞でニュースを読まないと、いろんなことがわからないと思います。旅行のとき、新聞を読まないと、

世の中のことがわからないし、すごく不安になります。また、朝はいそがしくて新聞を読まない人もいっぱ

いいるけど、あんまりよいことじゃないので、読んだほうがいいんじゃないでしょうか。

2. 「私の国のおすすめの店」について、キーワードを表の中に入れてください。

それから、その店、説明、理由について作文を書いてください。

(30点)

作文は「普通体」・「書き言葉」で書いてください。

	キーワード
店	
説明	
理由	

「私の国のおすすめの店」

名前 ()

期末テスト 評価

名前 ()

計 / 100 点

1. 「普通体」 「書き言葉」 / 30 点

2. 「私の国のおすすめの店」 / 30 点

- 1) 説明と理由がわかりやすく書かれている。 1・2・3・4・5
- 2) 本文が5行以上書かれている。 1・2・3・4・5
- 3) 普通体・書き言葉で書かれている。 1・2・3・4・5
- 4) 文法や言葉が正しく使われている。 1・2・3・4・5
- 5) キーワードがわかりやすい。 1・2・3・4・5
- 6) 日本語作文の書き方のルールを守っている。 1・2・3・4・5

3. グラフの説明の作文 / 40 点

- 1) 3つの段落にわけて書かれている。 1・2・3・4・5
- 2) 段落にグラフの説明・わかること・意見がある。 1・2・3・4・5
- 3) グラフを説明する表現が正しく使われている。 1・2・3・4・5
- 4) 意見を述べる表現が正しく使われている。 1・2・3・4・5
- 5) 本文が半分（8行）以上書かれている。 1・2・3・4・5
- 6) 普通体・書き言葉で書かれている。 1・2・3・4・5
- 7) 文法や言葉が正しく使われている。 1・2・3・4・5
- 8) 日本語作文の書き方のルールを守っている。 1・2・3・4・5

コメント



最後に

本書を手にとってくださった方に、できるだけ私たちの作成の意図が伝わるようにと願ってこの手引きを書きました。学習者が変わり、学習の場が変われば、教え方／学び方も変わってきます。「ここはわかりやすかった」「ここがうまくいかなかった」「ここはどうやってやるの？」といったお声をいただければ、それに応える形でこの手引きを改善していきたいと思えます。どうぞご意見、ご質問をお寄せください。

凡人社の問い合わせフォーム

<https://www.bonjinsha.com/wp/contact>